



## 台灣原住民族看 愛努民族的發展

台灣原住民族から見たアイヌ民族の発展

Taiwanese Aborigines' Viewing the Development of Ainu

Sing'Olam 台灣基督長老教會總會 副總幹事

尾原仁美 翻譯

**從** 台灣原住民族看愛努（アイヌ）民族的發展，台灣原住民族（以下簡稱：台原）與愛努族有些背景類似，雖然日本國憲法第14條明記：在法律之下所有的國民是平等的，但是，愛努民族從未感受到平等待遇，例如：被殖民之經驗——宰制、剝削、壓迫、同化、歧視等慘景，都差不多。而他們最可悲的地方就是：似乎很難挽救消失殆盡的語言與文化。語言被淡忘到沒有人可以講完整的母語，這已經是過一個世紀，家喻戶曉的事情。因此，他們的民族認同非常薄弱。他們沒有土地權（包含漁獵區），政府漠視其存在（民族群體）。部落（コタン，kotan）組織不健全，沒有國會議員充當代言議士，也沒有強而有力之宗教團體協助整合意見與推動民主運動。似乎處在窮途末路了。這是

台灣原住民族からアイヌ民族の発展を見ると、台湾原住民族（以下「台原」と略す）とアイヌ族には似通った背景もある。日本国憲法第14条には、法律の下すべての国民は平等であると明記されているが、アイヌ民族は平等であると感じたことがない。例えば、殖民された経験—統括支配、搾取、圧迫、同化、差別など—の悲惨さは似通ったものである。彼らの最も悲しむべきところは、すでにほとんど消失してしまった言語と文化を救い出すことが難しいことだ。アイヌ語を完全な母語として話す人がいなくなってからすでに一世紀が過ぎたことは、周知の事実である。そのため、彼らの民族アイデンティティは非常に弱い。彼らには土地権（漁獵区も含む）がなく、政府はその存在（民族グループ）を無視している。部落（コタン）組織は整っておらず、代表の国會議員もおらず、意見をまとめたり民主運動を推進する強力な宗教団体もない。これはほとんど絶体絶命の状態であり、台原もこれをもって戒めとしなければならぬところである。

台原要引以為鑑之處。

愛努民族曾出現過非常優秀的人物：語言學者教授——知里真志保、詩人——知里幸惠（アイヌ神謡集）、江賀寅三、務實的社運名將——貝澤正、政治家/文史學者博士——萱野茂、現代アイヌ解放運動領袖人物——野村義一，他們曾努力為民族爭取生存空間，在多元文化的思潮下，語言文化慢慢地活過來，激起他們成為愛努民族的驕傲。

愛努民族自己有相當組織之「社團法人北海道ウタリ協會」（ウタリ：鄰居、同胞），其下有50餘個支部，各支部都有正副長，均設有文化保存會，及配置領薪的生活館相談員，其中也有和人擔任相談員。協會成立之目的，係透過各地區支部、文化保存會與生活館，落實推展語言文化。「語言」是他們事工推展最弱的部分，是族人本身受到日語強勢影響極深之故吧！他們發現民族身分認同弱化的因素之一，是因為長久失去語言文化資產。但是，在保護土地權力、舉辦民族文化祭典活動方面，比較有特色。振興頹勢的語言與文化，假使有如台灣原住民族委員會的部門來負責規畫，編列經費和事工，以及台灣教會牧長熱烈推展之支援，必定能構成強化民族意識的能量。

アイヌ民族にもかつて非常に優秀な人物が出現した。言語学者の知里真志保、詩人の知里幸恵（アイヌ神謡集）、名伝道師の江賀寅三、實際的社会運動の名将貝澤正、政治家/アイヌ文化学者博士の萱野茂、現代アイヌ解放運動のリーダー野村義一。彼らは民族が生存する空間を勝ち取るため努力した。多文化思想の下に言語文化は少しずつ復活し、彼らにアイヌ民族である誇りを起こさせた。

アイヌ民族は相当に組織化された「社団法人北海道ウタリ協會」（ウタリ：仲間、同胞）を持つ。支部が50以上あり、各支部には正副長がいて、文化保存会を併設している。そして、有給の生活館相談員を置いており、中には和人の相談員もいる。協会成立の目的は、各地の支部、文化保存会、生活館を通して、言語文化を着実に推進することである。「言語」は彼らの最も弱い部分であるが、それはアイヌ族人自身が優勢な日本語に非常に深く影響されているためであろう。民族アイデンティティ弱化的原因のひとつが、長期間言語文化資産を失っているためであることに、彼らは気付いている。しかし、土地権力の保護や民族文化祭典などの方面は、比較的特色がある。退勢の言語文化を振興するためには、もし台湾原住民族委員會の部門が企画し、予算を組んで実行すれば、そして、台湾教會の牧師や長老たちが熱烈に支援すれば、必ずや民族意識のエネルギーを強化することができるであろう。

學界方面，北海道大學設有愛努・先住民研究中心。該中心設置在大學圖書館內，專門舉辦相關議題的學術演講，以及從事愛努民族研究工作。該中心與台灣的政治大學原住民族研究中心有密切的聯繫，從事學術交流與研究。

教會方面，比較積極關心協助愛努民族的是日本基督教團北海教區的愛努民族委員會，其組員之一，即是台灣基督長老教會派去北海道的布農族籍女宣教師Divan牧師。他們當中的和人牧師，也非常投入培育愛努民族人才之事工。

過去八十年來，北海道ウタリ協會努力營運民族組織，爭取北海道主人之權力。貝澤正曾對政府的愛努民族「差別政策」嚴厲的批判，並主張廢止當時「北海道舊土人保護法」。值得一提的，ウタリ協會負責語言文化之振興工作，統合辦理札幌豐平川アシリチェツプノミ (asir-cep-nomi) 鮭魚再生祭儀 (祈求Kamuy神給予更多的鮭魚之儀式)、夏克沙印シヤクシヤイン (shakushain) (愛努民族戰神之名) 獨立戰爭紀念之祭典、國際文化交流活動。此外，北海道大學愛努・先住民研究中心、苫小牧駒澤

學術界においては、北海道大学がアイヌ・先住民研究センターを設立した。当センターは大学図書館内に設置されており、関連する議題の講演会を行ったり、アイヌ民族研究の仕事に従事している。当センターと台湾の政治大学原住民族研究中心は密接な繋がりを持ち、学术交流と研究を行っている。

教会方面では、アイヌ民族への助力に比較的積極的なのは、日本基督教団北海教区のアイヌ民族委員会である。その一人に、台湾基督長老教会から北海道に派遣されているブヌン族の女性宣教師Divan牧師がいる。和人の牧師も、非常に熱心にアイヌ民族の人材育成を行っている。

過去80年来、北海道ウタリ協會は民族組織を作り、北海道の主人の権力を勝ち取るために努力してきた。貝澤正は、政府のアイヌ民族に対する「差別政策」を厳しく批判し、当時の「北海道旧土人保護法」

を廃止するよう主張した。特筆すべきは、ウタリ協會が行った言語文化の振興で、札幌豊平川アシリチェツプノミ (カムイに多くの鮭を与えてくれるよう祈る、新しい鮭を迎える儀式)、シヤクシヤイン (アイヌ民族の英雄) 独立戦争記念祭典、国際文化交流活動などを行っていることである。また、北海道大学のアイヌ・先住民研究センター、苫小牧駒澤大学の国際文化学



▲ 行政院原民會2007年出版的《聯合國原住民族權利宣言》。

大學的國際文化學系、以及大小型博物館之教育功能，必會引起正面之效益，也會激起語言學習動機與記憶之反應。

愛努民族到底有多少母語人口，已不需要提問。重要的是，他們有無察覺到語言流失之危機。如果語言與認同盡失，民族也會被大社會所遺忘。過去促成台原族群語言能永續存在，是台灣基督長老教會原宣與教會牧長共同付出努力之成果。加上原住民族大學生的覺醒與命運自決，還有學界與原宣合力促成原住民權利促進會，扮演爭取權益來推動民主運動，以及受台灣大社會的支持與響應。否則，如今台灣原住民族的現況將與愛努民族的厄運一樣不堪設想。

愛努民族何去何從？多少愛努民族對語言瀕臨消失有危機感？是否可以把國際交流的經驗，做為營運民主運動的能量？聯合國原住民族之憲章，能否迫使政府改變政策，承認他們是一個民族？總言之，愛努民族的自覺與自決運動必須積極推動。而台原必須注意到自己現階段的語言人口逐年減少，是否也步上愛努民族之後塵。沒有危機感本身就是危機。

科、および大小の博物館の教育機能は、必ずやプラスの効果を受け、言語学習の動機付けともなることであろう。

アイヌ民族の母語人口は何人なのか、このことはもう問う必要はない。重要なのは、彼らが言語流失の危機に気付いているかどうかである。もしも言語もアイデンティティも喪失してしまったら、その民族は社会から忘れ去られる。過去に台原エスニック・グループがその言語を永続的なものにすることができたのは、台湾基督長老教会原宣（原住民宣教委員会）および教会の牧師や長老たちが共同で努力した成果である。加えて、原住民族の大学生たちが覚醒し、自らの命運を自分で決めたこと。また、学界と原宣が協力して作った原住民権利促進会も、権益を勝ち取り民主運動を推し進める役割を演じ、台湾社会の支持と共鳴を獲得した。これらがなければ、今の台湾原住民族の現況はアイヌ民族と同じように悲惨なことになっていたろう。

アイヌ民族はこれからどうなっていくのだろうか。何人のアイヌ民族が、言語消失に危機感を持っているだろうか。国際交流の経験は、民主運動のエネルギーとなるだろうか。国連の先住民族宣言は、政府の政策を変え、彼らをひとつの民族として認めさせることができるだろうか。つまりは、アイヌ民族の自覚と自決運動こそが、最も必要なのだ。そして台原は、自分たちの現段階の言語人口が年々減少していくことに注意しなければならない。さもなくば、アイヌ民族と同じ道を歩むことになる。危機感がないことこそが、危機なのである。

Sing 'Alam  
星、原住民族